



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。

第1回生徒指導担当者・生徒指導主事研修会 平成30年7月2日（月）実施

「解決志向のホワイトボード会議 ー高知の子どもたちを幸せにする会議ー」

講師：高知大学 鹿嶋 真弓 教授

解決志向のホワイトボード会議

ねらい

- ・ 子どもの実態を知り、チームで子どもを育てること
- ・ メンバーの考え方や支援方針を共有すること
- ・ 具体的な手立てを決めること（5W1Hで）

前提になる考え方

- ・ チームで支援すること
- ・ 解決志向のカウンセリング
- ・ ファシリテーションとホワイトボードの活用
- ・ 時間は30分間

会議の進行を行う“ファシリテーター”は「促す・促進する人」という意味であり今は「**変化を起こす人**」という意味で、“**カタリスト**”と呼んでいます。



【モデルに学ぶ】

ステージ上で30分間ホワイトボード会議を実演しました。

<準備物>

ホワイトボード、3色のペン、デジタルカメラ、時計

<会の進め方>

- ① ルール・終了時刻の確認
解決志向で行うこと、守秘義務を果たすこと。
- ② 事例の報告（5分）
事例報告者から、詳細な情報の報告
- ③ 質問・リソース探し（10分）
参加者から質問をし、解決に向かう多様なアイデアを出し合う。
- ④ ゴールメンテナンス
「今日のゴール」の設定
- ⑤ 解決のためのブレインストーミング
ゴールに向かうために、具体的な行動レベルで何をするかの決断を挙げる。
⇒ 事例提供者は、挙げられた解決策からゴールに向けて三つほど選ぶ。



メリット

- 時間的負担が少なく、手応えを得ることができる！
- メモを取らなくてよい！
- 参加することで、「リソース（資源）の引き出し」が多くなる！
- 途中で参加しても、ホワイトボードを見れば状況が分かる！
- 個人の事例だけでなく、学級の事例、保護者対応、学校の課題にも応用できる！

振り返り

- ・ カタリストから
注意していたことは、ゴールに向かえるようなヒントになるものを引き出すことである。
- ・ 事例提供者から
事例報告をしながら、必要な情報の精選が必要と感じた。
- ・ 参加者から
関係のない質問をしてしまったと思ったが、カタリストにうまく関係付けてもらった。視野が広がった。

成功のカギは「解決志向」

1 「どうしたらうまくいか」へ考え方の転換

原因の多くは解決しないことが多いため、「**うまくいっている状態ではどのようなことが起きているか**」について想像してみるようにして、原因の追及をしすぎない。

⇒ **具体的な行動レベルで**ゴールイメージをもつ。

2 うまいかなければ行動を変える

- ・ 子どもを変えようとするのではなく、**教師自身の行動（対応や方法）を変えれば未来が変わる。**

⇒ 過去の事実は変えられないがとらえ方を変えれば未来が変わる。

- ・ 小さな変化でいいから、**変化を起こす**ことが大切。

⇒ うまいいかないときはつい同じことを繰り返していると考えられる。今までにない別の方法を試してみて「**うまくいったらそれを続ける**」こと。



<研修アンケートから>

- ・ ホワイトボード会議による時短とスモールステップの解決方向は大変有効だと思う。
- ・ 自分のメタ認知が徐々にできてきたが、カタリストは大変難しいと実感した。
- ・ これから若年教員が増えてくることを考えると、このホワイトボード会議によって、子どもの見方や手立て、着眼点等を知ること、資質や指導力が向上するのではないと思った。

【体験から学ぶ】

7グループに分かれて、参加者全員が30分間のホワイトボード会議を体験しました。



養護教諭研修会・不登校支援担当者研修会

平成30年7月23日（月）実施

対象：高知市立学校養護教諭（臨時的任用教員を含む）・高知市立学校不登校支援担当者

目的

- ・ 養護教諭として必要な専門的知識・技能を習得し、実践的指導力の向上を図る。
- ・ 学校内において、不登校の予防・対応に組織的に取り組むためのリーダーとなる教員の資質向上を図る。

「子どもも教員も成長できる不登校支援 ～解決志向で変化を起こす～」

講師：高知市立城西中学校 吉本 恭子 校長



成功のカギは
「解決志向」

「なぜうまくいかないか」と原因を追及しすぎずに、「どうしたらうまくいくか」へ考え方を転換してみる。そのためには「うまくいっている状態ではどのようなことが起きているか」について想像し、具体的な行動レベルで考えてみる。

1 別室登校者に対する支援 「自分の願いをかなえるためのオーダー表」

自分の願いをかなえるためのオーダー表

() 年 () 月 () 日 氏名

長期目標

短期目標

* 目標は自分のなりたい姿を書こう。

そのために…

自分が努力すること	誰かに助けてほしいこと	
	誰に	何をしてほしい

☆ 学校に来た日にシールを貼ろう!!

7月	日	月	火	水	木	金	土

子どもが自分のなりたい姿をイメージして、長期目標と短期目標を立てる。そして具体的に自分が努力することは何か、誰に、何を助けてほしいのかを書いて、友達や教員に援助要請をしてなりたい姿への一歩を踏み出せるようにする。

生徒指導の三機能の観点から

1 子どもに自己決定の場を与える

何かの決定に関与できる、参画できる、選択することができる、自我関与できる

2 子どもに自己存在感を与える

役割がある、自分の存在や活動が認められる

3 共感的人間関係を育成する

本音で語り合える、互いに認め合う関係がある

- ・ スモールステップで達成感を得る
- ・ 非援助行動を高める



2 課題解決のための取組 ～すべての学校で今すぐできる校内研修の方法～

(1) ぼうずめくりトーク

～あなたの悩みは私の悩み～

○ 目的

- ・ 自分を語れる教師になる
- ・ 仲間の力を借りて悩みを解決する

○ 方法

【個人作業】

- ① 1枚の付箋に悩みを一つ具体的に書く

【グループ活動】

- ② ①で出された悩みをカードにして、班の数だけ作る
- ③ カードを重ねて中央に裏向けで置く
- ④ カードを引く順番を決める
- ⑤ カードを引いた人が悩みを読み上げる
- ⑥ 解決方法についてみんなで出し合う
- ⑦ ⑤・⑥を繰り返す

(2) ライフチャートでセルフモニタリング

○ 目的 求められるのはセルフモニタリングの力

○ 方法

【個人作業】

- ① * 8つの分野について自分から見た満足度を0～10の目盛りで示す

【グループ活動】

- ② ライフチャートを使って自分の学校の不登校支援について語る
 - ・ 何ができていて、何が十分でないのか
- ③ ア～エについて、未来の自分を語る
 - ア ライフチャートで変化を起こしたい分野
 - イ どうなったらその分野がひと目盛り上がったと言えるか？
 - ウ そのために自分では何ができるか？
 - エ ウをするためにあと何があればよいのか？

* 八つの分野…①家庭訪問など家庭との連携、②不登校にしない学級づくり、③カウンセラー、SSWの活用、④別室での支援、⑤関係機関との連携、⑥校内での情報共有、⑦出席の確認・初期対応、⑧学力・進路保障

【受講者の感想】

- ・ 自らを振り返ることができた研修であった。今まで一方的にしか見えてこなかったことが多方面から見ることでできた。情報交換や共通理解ができる内容で充実した研修であった。
- ・ 他校の不登校支援担当者や養護教諭と同じ悩みを話すことで、いろいろなアイデアをもらうことができた。

ご意見・ご感想を高知市教育研究所 教職員研修班までお寄せください。